来島どっく健康保険組合様

子宮頸がん検診
HPV検査（ﾋﾄﾊﾟﾋﾟﾛｰﾏｳｲﾙｽ検査）

メスプ細胞検査研究所

「子宮頸がん」の大きな問題

- 子宮頸がんは、20～30代で急増しています。特に、若年層に発生することに伴う、子宮頸がん独特の大きな問題があります。

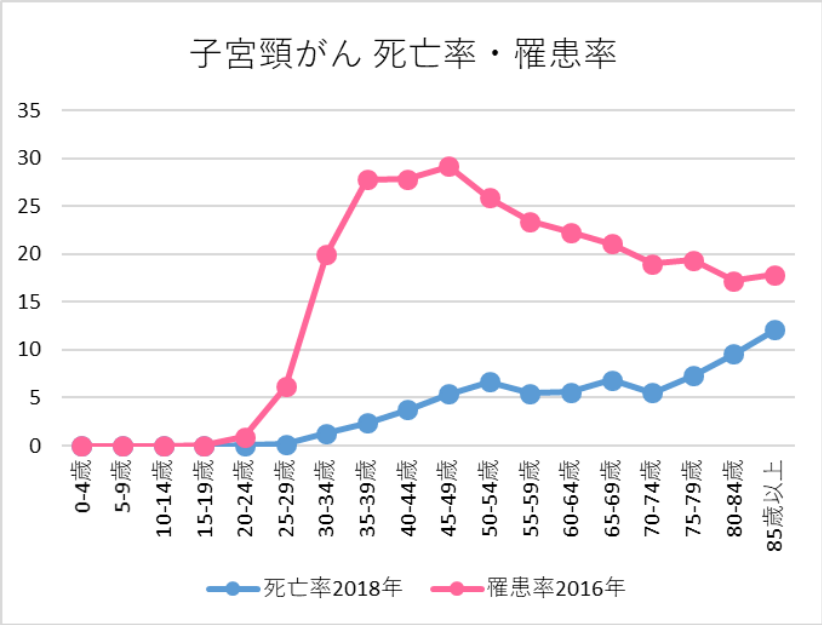
- それは、子宮頸がん特有の妊娠・出産への影響です。
- 手術だけでなく、放射線治療、内分泌治療法により起こる可能性のある後遺症が、人生設計・QOLの低下や家族・パートナーとの関係性に大きく関わります。
- ですから、**定期的な検診で早期発見・治療し、生殖機能を維持することが大切**です。

統計データから見た子宮頸がん

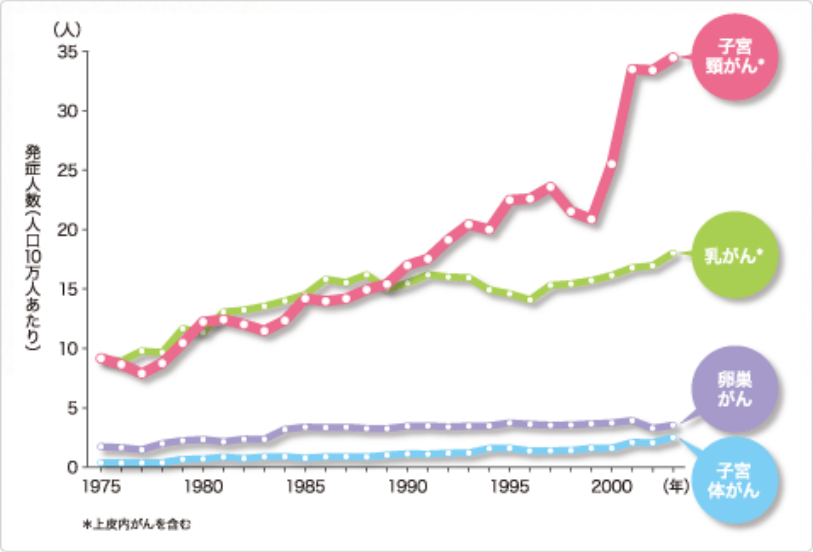
- 日本では約34,100人が罹患し、約2,800人が死亡しています。

（人口動態統計　罹患:2016年、死亡2018年）

- 妊娠出産年齢である20代、30代で乳がんを上回って最も多く発生しています。



図：日本における20～39歳の女性10万人当たりの各種がんの発症率推移



国立がんセンターがん対策情報センター、人口動態統計（厚生労働大臣官房統計情報部）

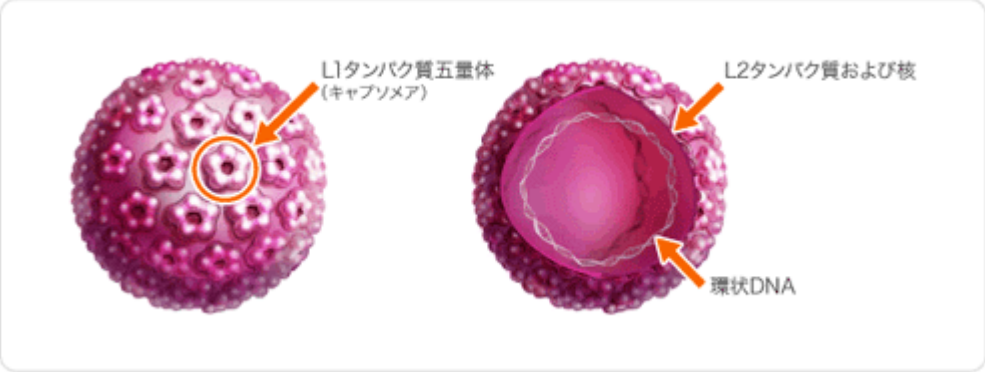
子宮頸がんの原因ウィルス

ヒト・パピローマ・ウィルス(HPV)

- 子宮頸がんは性行為によるヒト・パピローマ・ウィルス(Human Papilloma Virus)の持続感染が原因です
- ヒトパピローマウィルス(HPV)とは
  - パピローマウィルス科パピローマウィルス属のウィルスで大きさは50～55nmです。
  - HPVはありふれたウィルスであり、性体験のある人は誰でも感染する可能性があります
  - HPVは現在100種類以上存在し、発がん性により低リスク群(6型、11型など)、**高リスク群(16型、18型など)**に分類されます
  - 多くの感染は一過性であり免疫により排除されますが一生涯有効な免疫記憶は形成されず、何度でも感染を繰り返します
- ワクチンの登場により原因となるHPVウィルスの感染を防ぐことができる見通しが出てきました

ヒトパピローマウイルス。金平糖のような形をしている
(グラクソ・スミスクライン社提供)

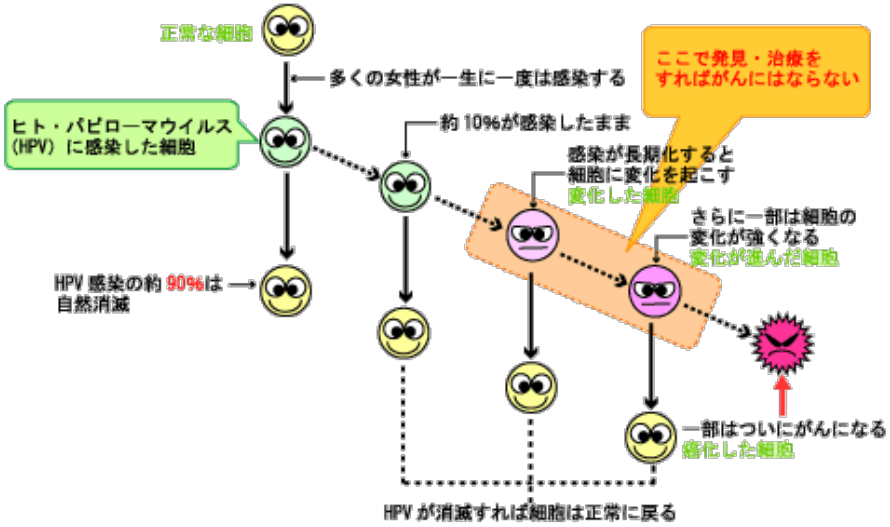
ヒトパピローマウィルス(HPV)

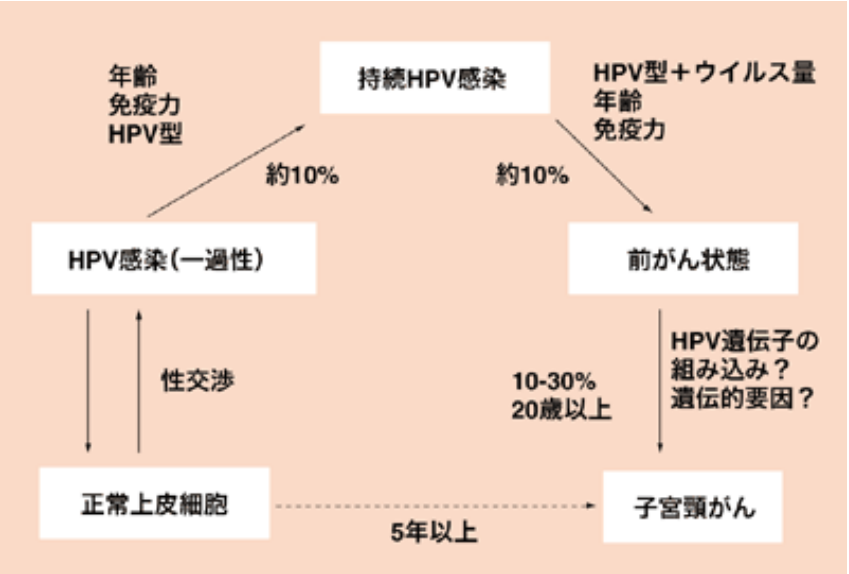


HPV感染と子宮頸がんの発生

がん化のプロセス

- HPVに感染しただけで子宮頸がんになるわけではありません
- 感染部に小さな傷があったり、免疫力の低下などによりHPVの持続感染が生じると、細胞深く侵入して定着し、細胞の異常分裂を引き起こしがん化への道を歩みます
- HPV感染からがんに進行するまでには平均10年以上の期間を要し、その間に長期にわたって前がん状態（異形成）が存在します
- 子宮頸がんは発症の原因からがんに移行していく過程が解明された病気であり、「予防できるがん」といわれます



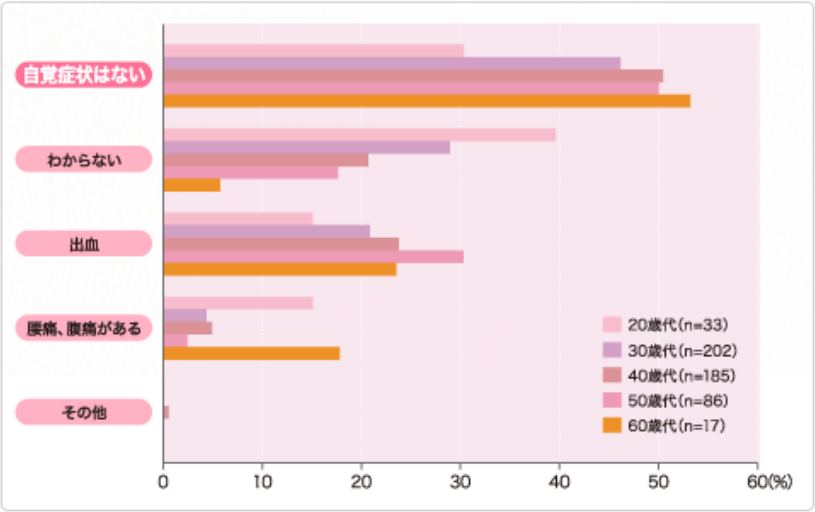


子宮頸がん検診

厚生労働省のガイドラインでは20歳以上が対象

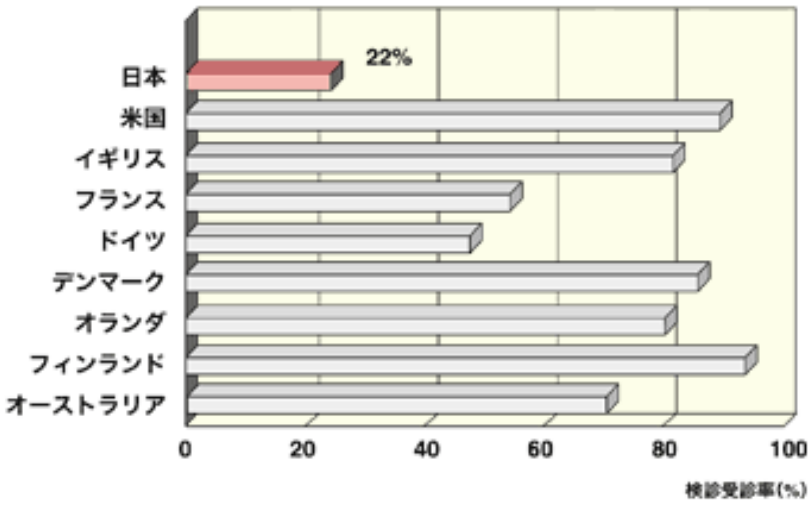
- 「子宮頸がんになった人の75%ががん検診を受けていない」という事実があります。
- 理由：症状がなかったから検診を受けなかった
  - 子宮頸がんの早期や前がん状態では大半は無症状といわれています
    - 自覚症状に関する調査（下図）参照
- 日本での子宮頸がん検診の受診率は22%と他の先進国に比べ著しく低いものです

図：子宮頸がんの自覚症状について（子宮がん検診に関する意識調査より）



滋賀朋子ほか:人間ドック21(3),704-707,2006より作図

先進国の子宮頸がん検診受診率

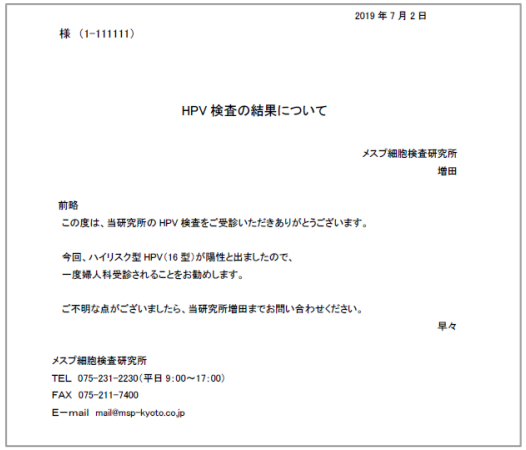


HPV検査

- リアルタイムＰＣＲ法によって、子宮頸部より採取した細胞が以下の13種類のHPVに感染していないかどうかを調べます
- 13種類の子宮頸がんの原因となる中～高リスク型HPV：16,18,31,33,35,39,45,51,52,56,58,59および68型を検出します。
- 検査結果は「陰性」または「陽性」と報告されます
  - HPVの型を16型、18型、その他と判別でき、がん化率の高い16型、18型方へは別途、精密検査受診勧奨文を同封

採取器具

受診勧奨：同封文面



2019 年 7 月 2 日

様（1-111111）

HPV 検査の結果について

メスプ細胞検査研究所
増田

前略
この度は、当研究所の HPV 検査をご受診いただきありがとうございます。

今回、ハイリスク型 HPV（16 型）が陽性と出ましたので、
一度婦人科受診されることをお勧めします。

ご不明な点がございましたら、当研究所増田までお問い合わせください。

早々

メスプ細胞検査研究所
TEL 075-231-2230（平日 9:00～17:00）
FAX 075-211-7400
E－mail mail@msp-kyoto.co.jp

幅広い受診機会のご提供のために
選択肢のひとつとしての自己採取

子宮頸がん検診の受診率は、他の国に比べると日本が際立って低いことが分かります。この原因は個々にいろいろあるでしょうが、あるアンケートでは、

どんな環境になれば子宮頸がん検診を受けますか?

·第一位 女医さんなら
·第二位　都合が良い時できるなら
·第三位　病院に行ってすぐできるなら
·第四位　悩みを聞いてくれるなら
·第五位　他人に知られないなら　があげられ、おおむね、恥ずかしい、忙しい、面倒というところが理由と思われます。
·その他の声としては、病院で嫌な思いをしたことがある方もおられます。

このような方に、検診の機会をご提供したいのです。

具体的実施のご提案

- 年齢を特定したHPV検査の実施
- 申込数推移（過去3年）

	2018	2019	2020
20歳～34歳	40	54	54
20歳～39歳	70	97	92
全年齢	198	263	239

- 今年度は、34歳未満（または39才未満）を受診対象とし、以降も対象年齢を特定しながら複数年での全世代に実施